

東濃圏域 各医療機関の2025年に向けた対応方針【①今後の方向性】

NO	状況	医療機関名	所在地	自施設の現状等	2025年に向けて担うべき役割等	病床機能等の見直し						
						① 病床 機能	② 病床数	③医療 機関の 役割	④ 連携、 再編	⑤ その他	⑥ 現状 維持	具体的な内容
3	変更	岐阜県立多治見病院	多治見市	<p>【現状、特徴】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高度急性期及び急性期の患者を受け入れ、医療の提供体制を整えている。 ●高度・急性期医療、急性期医療及び政策医療などに積極的に取り組んでいる。(救命救急医療、周産期医療、がん医療、精神科・感染症医療、緩和ケア) ●地域医療支援病院として、多治見シャトルの運営など、近隣医療機関との連携を高め、医療連携を進めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●4年度連続で単年度収支が赤字となっており、業務の効率化や医業収益の更なる増収を目指す必要がある。 ●看護師の確保が困難となっており、確保対策の取り組みを強化する必要がある。 ●地域医療支援病院として、近隣医療機関との更なる連携の強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高度急性期及び急性期患者の受け入れを継続。 ●高精度・先進医療。急性期医療及び政策医療など他の医療機関では実施が困難で、地域に不足している医療に積極的に取り組む。 ●近隣医療機関との連携を高め、協力体制の充実により、更なる紹介・逆紹介の促進を図る。 		○					新棟開院に伴い、一般病床を501床から487床へ削減する予定。
5	変更	総合病院 中津川市民病院	中津川市	<p>【現状、特徴】</p> <p>東濃東部の基幹病院として急性期及び回復期の機能を担っている。 コロナ禍においてもこの地域の要の医療機関として役割を果たしている。</p> <p>【課題】</p> <p>令和4年度から脳神経内科の常勤医師が不在となり、入院患者数の減少に繋がっている。また、ドクターカー(兼麻酔医)の医師が2人から1人体制となり、麻酔医が不足している。年々、医師確保の状況は厳しくなっており、一番の課題と認識している。</p>	中津川市が試算した将来入院患者数は2030年から2040年を目途にピークを迎えるが、その後も高齢者数は横ばいのため、当院の医療ニーズの減少はないと考えられる。		実施済み	○	○			<p>②休床していた44床を削減した。</p> <p>③新興感染症対策事業の体制確保</p> <p>④高齢者人口が今後20年間は横ばいのため、当院の医療ニーズは量的には変わらないが、質の向上を求められる時代であり、職員数の増加や働きやすい現場にすることが求められる。</p>
16	変更	浜田・浅井医院	多治見市	<p>【現状、特徴】</p> <p>末期癌を中心とした在宅医療</p> <p>【課題】</p> <p>人員の確保</p>	在宅医療の継続						○	人員不足により、今後の継続が危ぶまれる。 数年は現状を保てると思うが、今後は不透明である。